

バリ伝統のガムラン合奏

中区 小中学生、独特音色楽しむ

浜松市鴨江アートセンターは28日、インドネシア・バリ島伝統の



「ガムラン音楽」の魅

梅田教授(右)の指導で、ガムランを合奏する子どもたち。浜松市中区の市鴨江アートセンター

力を伝えるワークショップを中区の同センターで開いた。市内外の

小中学生12人が独特の音色を楽しんだ。

バリ島の芸術大学に留学経験がある静岡文化芸術大の梅田英春教授が講師を務めた。梅田教授はガムランが青銅製の鍵盤打楽器で、

ばちでたたいて音を出すことを説明した。参

術大学の一環。

加者はコの字型に並んで四つの鍵盤から成るガムランを合奏し、音の高さの違う鍵盤をたたくことで生まれる「音の揺れ」を体感した。

市立佐鳴台小2年の伊藤新菜さんは「面白い音がした。音が震えているのが楽しかった」と話した。

ワークショップは、第一線で活躍する芸術家が小中学生に文化や芸術の楽しさを伝える「ふじのくに子ども芸術大学」の一環。